

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率 月次指標の早期推計：10月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: nomura-r@apir.or.jp

ポイント

●11月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶JNTO 訪日外客統計によれば(図1 及び表4)、**10月の訪日外客総数(推計値)は331万2,000人**となった(前年同月比+31.6%)。紅葉シーズンに入り、訪日旅行需要が高まった影響もあり、**過去最高値を更新した**。なお、1-10月累計の訪日客数は3,019万2,600人となり、1964年の統計開始以降、最速で3,000万人を超えた。また、**出国日本人数は114万8,400人**となり、**4カ月連続で100万人超の水準**となった(同+22.5%)。ただし、19年同月比でみると、-31.0%となっており、依然回復が遅れている。

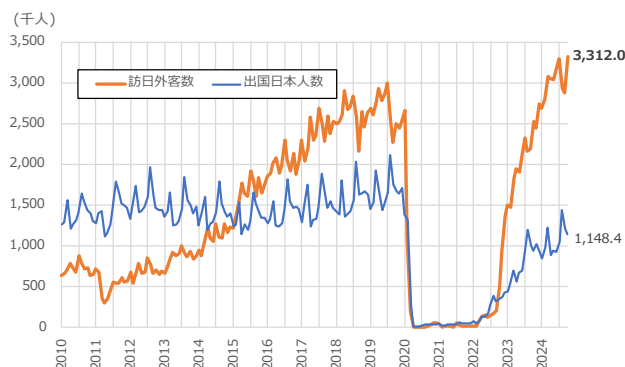
▶訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図2 及び表4)、**10月は韓国が73万2,100人**(前年同月比+16.0%)で**最多**であった。次いで中国が58万2,800人(同+127.3%)、台湾が47万8,900人(同+12.7%)、米国が27万8,500人(同+31.5%)、香港が19万8,800人(同+10.9%)と続く。なお、10月は**カナダ、メキシコ**などが**過去最高値を更新した**。

▶**目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(図3 及び表5)、8月は293万3,381人**であった(前年同月比+36.0%)。うち、**観光客は264万6,445人**と、**8月として過去最高値を更新**(同+39.5%)。また、**商用客は7万5,730人**(同+1.5%)、**その他客は21万1,206人**(同+13.9%)であった。

▶観光客のTOP5を国・地域別にみれば(表5)、**8月は中国が65万5,002人**(前年同月比+130.3%)と**最多**であった。次いで韓国が58万1,265人(同+7.5%)、台湾が54万9,594人(同+43.2%)、香港が24万2,602人(同+19.6%)、米国が15万7,571人(同+28.2%)と続く。なお、8月は**イタリアとスペインが過去最高値**となった。

▶**中国政府は2020年3月にCOVID-19感染拡大を受けて停止していた日本人の短期滞在ビザ免除を11月30日から再開した**。これを受け、**日本政府も訪日中国人客のビザの発給要件緩和に向けて調整を行っている**。現在、中国人客が観光目的で日本へ訪れる際、所得や預金残高の証明書などの提出が必要となっている。今回の緩和措置では申請に必要な提出書類の見直しや手続きを一部簡素化すること等が検討されている。緩和措置が実現すればビザの取得が容易となることもあり、訪日中国人観光客の増加につながる可能性が高まろう。

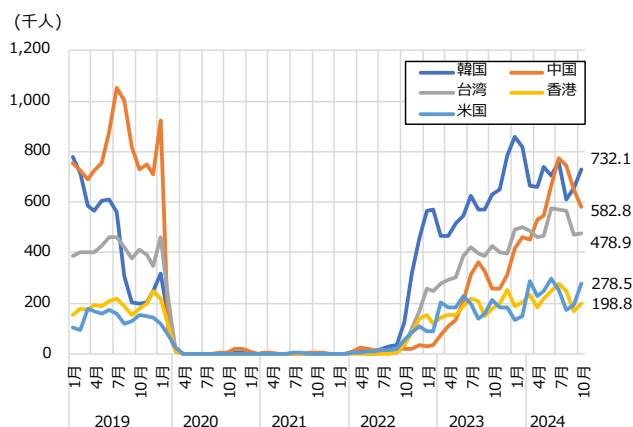
図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

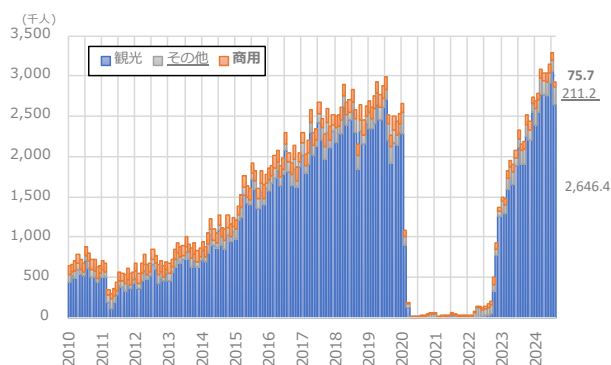
注) 2022年まで確定値。23年、24年1-8月は暫定値、24年9-10月は推計値

図2 上位5カ国・地域別訪日外客数の推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成。

図3 目的別訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

注) 目的別訪日外客数については訪日外客数(推計値)から2カ月遅れて発表される。「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが2023年9月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待って今後再開する予定である。

トピックス 1

●10月関西の財貨・サービス貿易及び9月のサービス産業動向

▶**関西10月の輸出額は**前年同月比+4.0%と**2カ月ぶりに増加**した(前月：同-3.0%)。また、**輸入額は**同+4.6%と**6カ月連続の増加**となった(前月：同+4.5%)。結果、**関西の貿易収支は**+1,689億円と**9カ月連続の黒字**(図4)、**黒字幅は**同-1.3%と**2カ月連続で縮小**した(前月：同-39.3%)。

▶**対中貿易動向をみると**(図5)、**関西10月の対中輸出は**前年同月比+3.1%と**2カ月ぶりに増加**した(前月：同-4.0%)。輸出増に寄与したのは**半導体等電子部品**や**非鉄金属**等であった。また、**対中輸入は**同+13.1%と**3カ月ぶりの増加**(前月：同-2.4%)。輸入増に寄与したのは**通信機**や**事務用機器**等であった。

▶**10月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は**82万9,341人となり(前月：73万8,390人)、**10月として過去最高値を更新**した。前年同月比+26.5%と、前月(同+24.8%)から増加幅は小幅拡大しており、**外国人入国者数は堅調に推移**している。なお、国土交通省が公表した2024年冬期国際定期便スケジュール(週次ベース)によれば、関空の国際旅客便数は1,353便とコロナ禍前の96%を回復した。方面別では、中国が456便(19年比-24%)と最多であり、次いで韓国が366便(同+58%)、東南アジアが191便(同-4%)と続く。このため、関空への外国人入国者数は引き続きアジアを中心に堅調に推移すると見込まれよう。また、日本人出国者数は21万5,352人であった。前年同月比では+32.1%と前月(同+28.7%)から幾分加速。ただし、19年同月比では-33.3%と依然マイナスが続いており、日本人出国者の回復は遅れている。

▶**サービス業の活動は一進一退の動きが続く**(図7)。サービス業の生産活動を示す**第3次産業活動指数**(季節調整済み：2015年平均=100)をみれば、9月は102.3で前月比-0.2%小幅低下し、**2カ月連続のマイナス**となった(前月：同-1.1%)。一方、**対面型サービス業指数***は98.6で同+0.7%上昇し、2カ月連続のプラス(前月：同+0.5%)。うち、**運輸業**(同+1.1%、2カ月ぶり)や**宿泊業**(同+1.7%、2カ月連続)が**上昇に寄与**。結果、**7-9月期の第3次産業活動指数は**前期比+0.8%と(4-6月期：同+1.2%)、**対面型サービス業は**同+1.1%と(4-6月期：同+2.5%)、いずれも**2四半期連続のプラス**となった。

▶**観光関連指数****(2015年平均=100)は、94.4と前月比+0.3%小幅上昇し、**2カ月連続のプラス**(前月：同+1.2%)。うち、**旅客運送業**(同+2.2%、2カ月ぶり)、**鉄道旅客運送業**(同+3.3%、2カ月ぶり)等が**上昇に寄与**した。**7-9月期の観光関連指数は**前期比+1.3%と**2四半期ぶりのプラス**となった(4-6月期：同-0.7%)。

*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

**観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

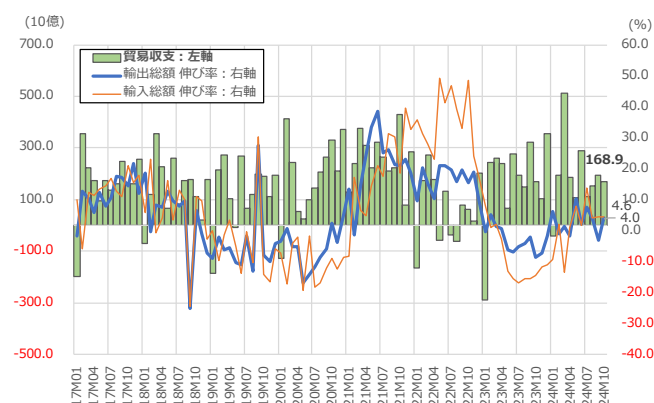
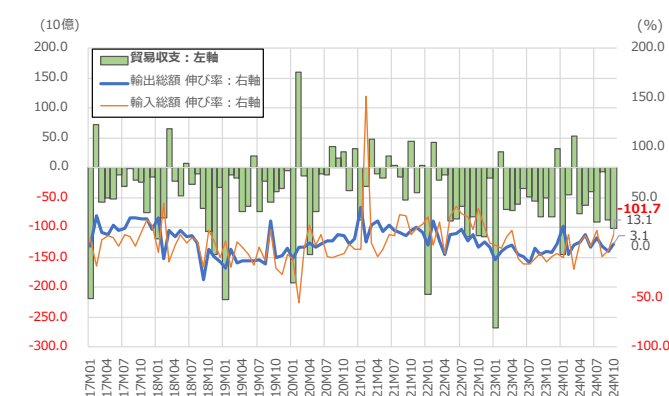
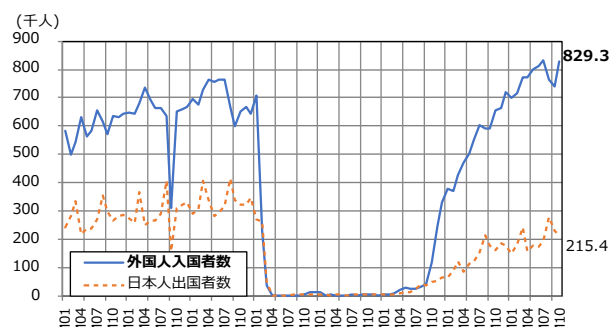


図5 関西 対中貿易の推移



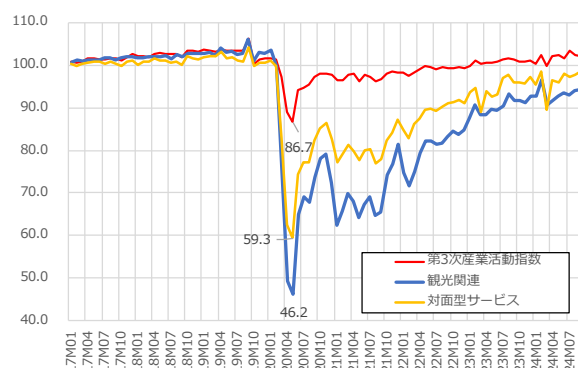
出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」より筆者作成

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。2024年10月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業：2015年=100



出所：経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

●8月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、8月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は**12,701.1千人泊**であった(表1)。前年同月比では+2.3%と前月(同+11.7%)から増加幅は縮小。8月は台風や「南海トラフ臨時情報」が発表された影響が表れた。

▶日本人延べ宿泊者数は**8,959.7千人泊**となった(表1及び図8)。前年同月比-4.6%と2カ月ぶりに減少した(前月：同+1.6%)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 2,812.4千人泊、兵庫県 1,608.0千人泊、京都府 1,406.7千人泊、三重県 896.6千人泊、滋賀県 524.5千人泊、和歌山県 448.6千人泊、福井県 440.6千人泊、鳥取県 319.1千人泊、徳島県 269.6千人泊、奈良県 233.8千人泊であった。前年同月比でみると、**京都府**が同-20.3%(15カ月連続)、**大阪府**が同-9.3%(2カ月連続)や和歌山県が同-16.9%(2カ月ぶり)とそれぞれ減少しており、日本人延べ宿泊者の減少に寄与した。

▶外国人延べ宿泊者数は**3,741.4千人泊**となった(表1及び図9)。前年同月比+24.0%と前月(同+34.8%)から増加幅は縮小したものの、8カ月連続で2桁の伸びが続いており、外国人延べ宿泊者は堅調に推移している。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 2,144.6千人泊、京都府 1,334.7千人泊、兵庫県 105.1千人泊、和歌山県 59.3千人泊、奈良県 35.1千人泊、滋賀県 16.8千人泊、三重県 16.5千人泊、徳島県 13.8千人泊、鳥取県 11.7千人泊、福井県 3.8千人泊であった。前年同月比をみれば、**大阪府**(同+24.5%)や**京都府**(同+25.9%)が全体の増加に寄与した。

▶大阪府と京都府の最近の動向を見ると、外国人宿泊者数は着実に増加しているものの、日本人宿泊者数は減少傾向が見られる(特に京都府において)。宿泊費高騰の影響がその要因の一つと考えられる。宿泊料金と現金給与総額の相対的関係(2019年=100)をみると(図10)、2023年に9.3ポイント、24年1-10月平均は22.0ポイントそれぞれ悪化している。一方、平均為替レートは、19年が109.01円、24年1-10月平均は151.03円と19年に比して、約28%円安になっている。この間の宿泊料金を巡る状況は、日本人には急速に厳しくなっているが、円安を享受している外国人には影響がない。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

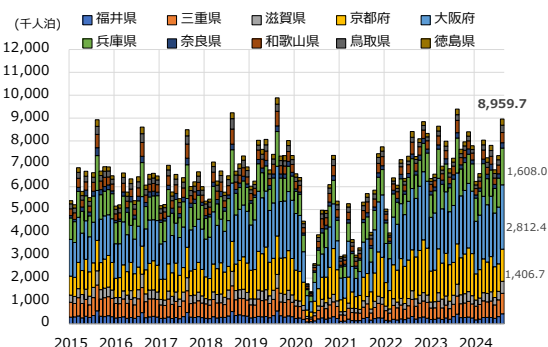


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

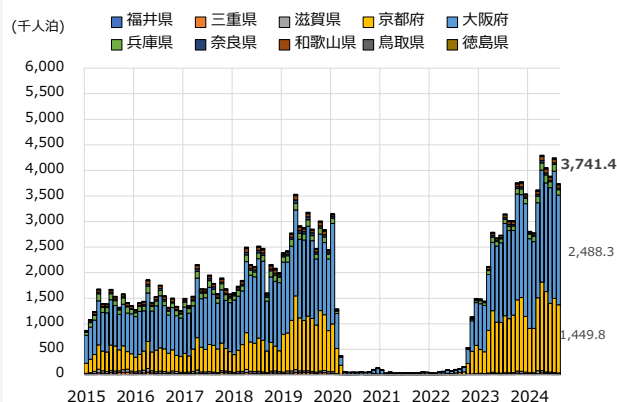
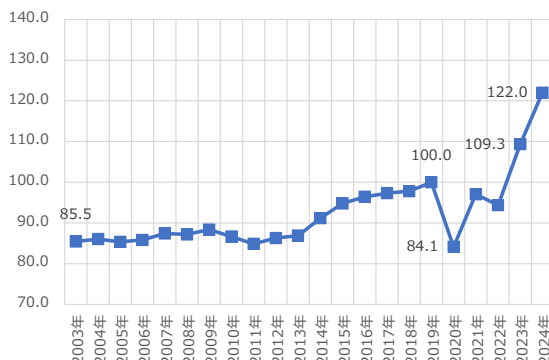


図10 宿泊料金を巡る状況(宿泊料/現金給与総額)



注) 宿泊料金(消費者物価)と賃金(現金給与総額)の相対的関係をみている。2019年平均を100。

出所) 総務省統計局『消費者物価指数』及び厚生労働省『毎月勤労統計調査』

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：8月

2024年8月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数：(千人泊)	前年比伸び率：当月(%)	前年比伸び率：前月(%)	延べ宿泊者数：(千人泊)	前年比伸び率：当月(%)	前年比伸び率：前月(%)	延べ宿泊者数：(千人泊)	前年比伸び率：当月(%)	前年比伸び率：前月(%)
福井県	444.4	3.1	-0.2	440.6	3.5	-0.6	3.8	-28.9	32.8
三重県	913.1	13.0	36.5	896.6	13.0	36.6	16.5	17.2	32.5
滋賀県	541.3	0.4	-5.9	524.5	1.5	-6.3	16.8	-24.1	0.5
京都府	2,741.3	-3.0	3.9	1,406.7	-20.3	-16.3	1,334.7	25.9	29.8
大阪府	4,957.0	2.8	15.8	2,812.4	-9.3	-0.2	2,144.6	24.5	37.8
兵庫県	1,713.0	6.8	13.6	1,608.0	5.3	10.1	105.1	36.1	63.9
奈良県	268.9	-0.7	-1.6	233.8	0.8	-1.3	35.1	-9.2	-3.2
和歌山県	507.8	-14.9	4.1	448.6	-16.9	1.0	59.3	4.7	25.1
鳥取県	330.7	27.4	34.5	319.1	27.4	32.3	11.7	28.4	89.1
徳島県	283.4	10.5	9.8	269.6	10.0	7.1	13.8	19.7	52.2
関西2府4県	10,729.5	0.7	10.2	7,033.9	-8.4	-2.4	3,695.6	24.1	34.7
関西2府8県	12,701.1	2.3	11.7	8,959.7	-4.6	1.6	3,741.4	24.0	34.8
全国	64,977.4	1.0	4.1	51,742.0	-3.7	-3.3	13,235.5	24.9	33.0

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」(図8～10及び表1)より筆者作成

トピックス 3

● 2024 年 7-9 月期国内旅行消費の動向：関西 2 府 8 県*

▶観光庁によれば、**2024 年 7-9 月期関西(2 府 8 県ベース)の国内旅行消費額(速報)**は 1 兆 1,531 億円となった(表 2)。前年同期比+10.0%と **3 四半期連続のプラス**だが、4-6 月期(同+27.3%)から増加幅は縮小。前述(トピックス 2)したように 8 月の自然災害の影響が表れたようである。

▶国内旅行消費額のうち、**7-9 月期の宿泊旅行消費額は 9,083 億円**であった。前年同期比+8.1%と **3 四半期連続のプラス**だが、4-6 月期(同+19.1%)から増加幅は縮小した(図 11 及び表 2)。府県別に消費額を降順にみれば、大阪府 2,398 億円(同-5.9%)、兵庫県 1,543 億円(同+12.1%)、京都府 1,412 億円(同-1.8%)、福井県 924 億円(同+176.0%)、三重県 876 億円(同+1.5%)、和歌山県 688 億円(同+3.8%)、滋賀県 555 億円(同+53.6%)、鳥取県 230 億円(同-48.9%)、徳島県 229 億円(同+7.1%)、奈良県 228 億円(同+43.6%)であった。前年同期比でみると、京都府、大阪府と鳥取県を除く県がプラスとなり、うち**福井県が宿泊旅行消費額の増加に大きく寄与した**。北陸新幹線の敦賀延伸の一部影響も考えられる。

▶国内旅行消費額のうち、**7-9 月期の日帰り旅行消費額は 2,448 億円**であった。**前年同期比+17.7%と 4 四半期連続のプラス**だが、4-6 月期(同+60.9%)から増加幅は大幅縮小(図 12 及び表 2)。府県別に消費額を降順にみれば、兵庫県 678 億円(同+51.0%)、京都府 368 億円(同-1.1%)、大阪府 324 億円(同-29.0%)、三重県 265 億円(同+143.6%)、滋賀県 230 億円(同+27.0%)、福井県 190 億円(同-10.1%)、奈良県 141 億円(同+8.7%)、和歌山県 115 億円(同+1.1%)、徳島県 84 億円(同+225.2%)、鳥取県 53 億円(同+62.5%)であった。前年同期比でみれば、**兵庫県、三重県、徳島県や鳥取県が大幅プラス**となっており、**日帰り旅行消費額の増加に大きく寄与した**。

*トピックス 3 は四半期ごとの掲載である。

図 11 関西 2 府 8 県 宿泊旅行消費額の推移

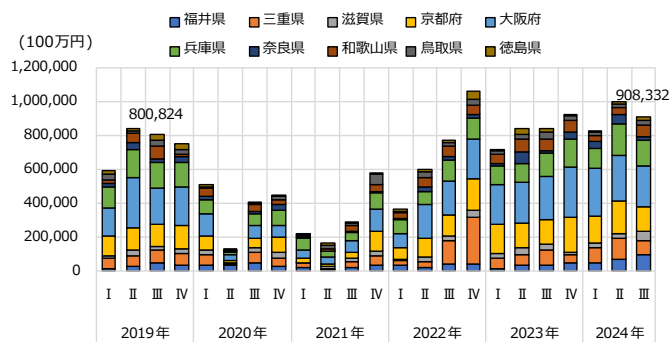
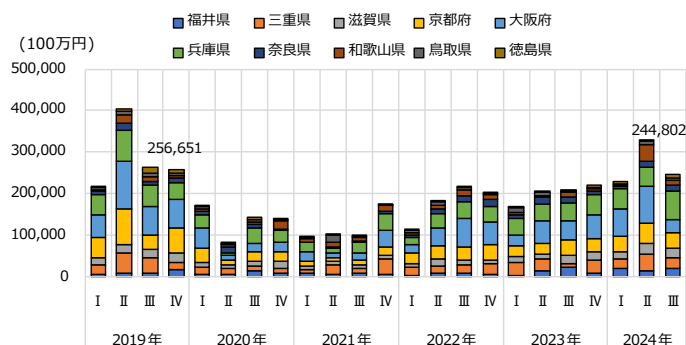


図 12 関西 2 府 8 県 日帰り旅行消費額の推移



(注) 宿泊旅行、日帰り旅行ともに、観光・レクリエーション目的以外に帰省・知人訪問等、出張・業務目的を含む。

2023 年までは確報。24 年 7-9 月期は速報(上図も同様)。

出所:観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。

表 2 関西 国内旅行消費額：2024 年 7-9 月期

	国内旅行消費額			宿泊旅行消費額			日帰り旅行消費額		
	金額： 100万円	前年比伸び率： 7-9月期(%)	前年比伸び率： 4-6月期(%)	金額： 100万円	前年比伸び率： 7-9月期(%)	前年比伸び率： 4-6月期(%)	金額： 100万円	前年比伸び率： 7-9月期(%)	前年比伸び率： 4-6月期(%)
福井県	111,440	103.9	76.2	92,394	176.0	113.6	19,046	-10.1	-1.3
三重県	114,111	17.4	76.5	87,590	1.5	89.9	26,521	143.6	44.7
滋賀県	78,490	44.7	-2.2	55,459	53.6	-38.1	23,031	27.0	139.5
京都府	177,953	-1.6	41.5	141,163	-1.8	34.4	36,789	-1.1	79.6
大阪府	272,256	-9.4	23.6	239,818	-5.9	14.2	32,439	-29.0	64.2
兵庫県	222,062	21.7	52.3	154,309	12.1	66.5	67,753	51.0	12.7
奈良県	36,924	27.9	-24.2	22,836	43.6	-25.7	14,088	8.7	-18.5
和歌山県	80,322	3.4	5.4	68,838	3.8	-42.1	11,483	1.1	953.4
鳥取県	28,267	-41.4	-23.1	22,995	-48.9	-31.0	5,272	62.5	5.8
徳島県	31,310	30.5	-45.1	22,929	7.1	-51.7	8,380	225.2	58.0
関西2府8県	1,153,134	10.0	27.3	908,332	8.1	19.1	244,802	17.7	60.9

出所：観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。

表4 2024年10月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2023年	2024年	伸率(%)	2019年	2024年	伸率(%)
	10月	10月		1-10月	1-10月	
総数	2,516,623	3,312,000	31.6	19,891,345	30,192,600	51.8
総数(中国除く)	2,260,252	2,729,200	20.7	18,037,005	24,362,100	35.1
韓国	631,124	732,100	16.0	5,525,891	7,200,800	30.3
中国	256,371	582,800	127.3	1,854,340	5,830,500	214.4
台湾	424,857	478,900	12.7	3,399,436	5,064,800	49.0
香港	179,316	198,800	10.9	1,662,894	2,170,700	30.5
タイ	124,558	132,200	6.1	755,628	884,200	17.0
シンガポール	55,116	68,800	24.8	391,520	459,100	17.3
マレーシア	45,162	55,100	22.0	303,520	373,200	23.0
インドネシア	40,260	43,200	7.3	323,551	393,800	21.7
フィリピン	69,225	80,200	15.9	479,468	623,000	29.9
ベトナム	50,456	51,000	1.1	490,076	530,900	8.3
インド	16,810	21,700	29.1	136,326	192,500	41.2
豪州	62,015	90,200	45.4	464,020	727,500	56.8
米国	211,867	278,500	31.5	1,677,919	2,238,600	33.4
カナダ	51,741	66,500	28.5	350,474	483,800	38.0
メキシコ	12,483	19,200	53.8	75,744	126,300	66.7
英国	37,431	51,600	37.9	268,096	369,800	37.9
フランス	34,356	49,400	43.8	235,522	333,200	41.5
ドイツ	30,893	43,300	40.2	202,971	284,900	40.4
イタリア	16,315	25,100	53.8	128,366	193,800	51.0
スペイン	15,515	23,400	50.8	98,505	152,900	55.2
ロシア	5,726	15,700	174.2	32,796	79,500	142.4
北欧地域	14,428	18,700	29.6	96,295	127,800	32.7
中東地域	10,234	20,900	104.2	94,378	134,600	42.6
その他	120,364	164,700	36.8	843,609	1,216,400	44.2

表5 2024年8月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)
	8月	8月		8月	8月		8月	8月		8月	8月	
総数	2,157,190	2,933,381	36.0	1,897,129	2,646,445	39.5	74,600	75,730	1.5	185,461	211,206	13.9
韓国	569,092	612,172	7.6	540,959	581,265	7.5	11,802	11,521	-2.4	16,331	19,386	18.7
中国	364,228	746,010	104.8	284,411	655,002	130.3	21,397	21,107	-1.4	58,420	69,901	19.7
台湾	396,346	564,360	42.4	383,880	549,594	43.2	5,386	6,350	17.9	7,080	8,416	18.9
香港	206,267	246,557	19.5	202,911	242,602	19.6	1,386	1,637	18.1	1,970	2,318	17.7
タイ	33,166	34,667	4.5	28,544	29,754	4.2	1,536	1,528	-0.5	3,086	3,385	9.7
シンガポール	20,276	24,781	22.2	18,491	22,828	23.5	1,268	1,383	9.1	517	570	10.3
マレーシア	19,206	17,174	-10.6	16,904	14,706	-13.0	1,003	935	-6.8	1,299	1,533	18.0
インドネシア	20,792	22,127	6.4	10,246	10,969	7.1	1,225	1,031	-15.8	9,321	10,127	8.6
フィリピン	38,627	38,971	0.9	28,892	28,363	-1.8	2,408	2,630	9.2	7,327	7,978	8.9
ベトナム	50,945	52,430	2.9	13,012	15,721	20.8	2,452	2,589	5.6	35,481	34,120	-3.8
インド	12,826	16,113	25.6	5,574	7,554	35.5	3,044	3,307	8.6	4,208	5,252	24.8
豪州	27,565	40,999	48.7	25,094	38,184	52.2	1,317	1,508	14.5	1,154	1,307	13.3
米国	138,362	174,051	25.8	122,898	157,571	28.2	7,166	7,165	0.0	8,298	9,315	12.3
カナダ	36,859	46,913	27.3	34,874	44,753	28.3	553	627	13.4	1,432	1,533	7.1
メキシコ	8,238	12,082	46.7	7,740	11,514	48.8	179	215	20.1	319	353	10.7
英国	23,837	29,410	23.4	20,105	25,439	26.5	1,320	1,374	4.1	2,412	2,597	7.7
フランス	25,866	31,421	21.5	22,667	28,144	24.2	1,063	970	-8.7	2,136	2,307	8.0
ドイツ	19,999	24,129	20.7	16,959	21,224	25.1	1,803	1,492	-17.2	1,237	1,413	14.2
イタリア	24,113	34,654	43.7	22,872	33,184	45.1	621	643	3.5	620	827	33.4
ロシア	3,355	6,874	104.9	2,308	5,544	140.2	366	447	22.1	681	883	29.7
スペイン	17,283	25,906	49.9	16,580	25,205	52.0	250	193	-22.8	453	508	12.1
中東地域	8,701	11,433	31.4	7,578	10,347	36.5	539	486	-9.8	584	600	2.7
その他	91,241	120,147	31.7	63,630	86,978	36.7	6,516	6,592	1.2	21,095	26,577	26.0

注) 目的別訪日外客数の定義については、図3注参照。

出所: 日本政府観光局(JNTO)、2024年11月20日付より筆者加工